



8/15 Hirado City Photo News
生月大橋を照らす大輪の花



生月町の館浦漁港で、約500発の花火が打ち上げられ、生月の夜空を明るく彩りました。

館浦地区ではご先祖の送り火として、毎年8月15日に精霊流しと併せて花火大会を行っています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、住民の密集などを避けるためにあえて事前の周知を行わずに、花火の打ち上げのみ行われました。

館浦地区の打ち上げ花火の様子は、平戸市公式YouTubeチャンネル「平戸チャンネル」で見ることができます。

8/7 Hirado City Photo News
平和を祈る500発の花火



爆心地・長崎から平和のメッセージを発信する番組「Japanet presents 被爆75周年 長崎から世界へ平和を -稲佐山音楽祭2020-」が放送され、クライマックスでは、平和を祈願して県内各地で花火が打ち上げられました。平戸市でも、5分間で約500発の花火が白浜港から打ち上げられ、夜空を明るく照らしました。

平戸から打ち上げられた花火の様子は、平戸市公式YouTubeチャンネル「平戸チャンネル」で見ることができます。

7/31 Hirado City Photo News
かくれキリシタンの聖地「中江ノ島」を清掃



世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の1つである、中江ノ島(下野町)で清掃作業が行われました。

中江ノ島は生月島のかくれキリシタン信者が島の岩の割れ目から「聖水」をくむ「お水取り」の行事を行っている場所です。今回、定期観察もかねて市文化交流課職員や平戸市生月町博物館「島の館」の職員など8人が島に渡り、約1時間かけて島に漂着したペットボトルや流木、漁具など90リットル入りポリ袋10個分を拾い集めました。



8/22 Hirado City Photo News
中瀬草原での思い出作りに



田平町の中瀬草原キャンプ場で、キャンパー向けのドローン空撮サービスの実証実験が行われました。

この試みは、操縦、撮影、編集などの一連の作業が求められていた従来のドローンでの映像制作を、専用のアプリケーションを利用することで、手軽に行えるようにするものです。

この日は、キャンプ場の利用客を対象に、無料で撮影を実施。参加者からは「中瀬草原でのキャンプの良い思い出になる。子ども連れなどから特に喜ばれると思う」との感想が聞かれました。

8/21~22 Hirado City Photo News
統合後初の競りが開催



田平町の平戸中央家畜市場で、宇久・小値賀家畜市場との統合後初の競りが開催され、子牛と成牛あわせて約500頭が競りにかけられました。

8月から宇久・小値賀家畜市場と統合したことにより、安定した出荷頭数が確保され市場の活性化が図られるとともに、競りの毎月開催により子牛の適齢出荷が促され、生産者の所得増加が期待されています。実際に、今回の競りの結果は、子牛の平均価格が702千円/頭(前回比108%)と大きく上昇しました。

8/3~4 Hirado City Photo News
生きた英語にふれあう



生きた英語に慣れ親しみ、英語に対する興味関心を高め、国際化の中で、観光都市平戸の将来を担う人材の育成を目的に「令和2年度イングリッシュキャンプ」が行われました。

今年は、市内の中学校に通う21人の生徒が参加。市街地の散策などを行い、散策で訪れた場所や平戸でおすすめのものを英語でプレゼンテーションしました。参加した生徒からは「発音を意識し、伝わるように工夫して話すことができ、通じていると感じることができた」との感想が聞かれました。

8/3~4 Hirado City Photo News
平戸の自然の中で野外体験



山中町の紙漉の里で、NPO法人ひらど海てらす主催の「令和2年度少年自然体験交流事業」が行われました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、日帰りでの開催となりましたが、市内の小学5~6年生44人が参加。1日目は、ロープワークや沢登りのほか、夕食の準備として飯盒炊飯やカレーの調理体験を行いました。2日目は、紙漉の里を離れ、安満岳ハイキングや荒崎海岸でのレクリエーションなど平戸の自然を満喫しました。